

坂上楠生と^{絵画}「青が散るによせて」

2008年6月竣工の「将軍山会館（校友会館）」に追手門学院大学が舞台となった「青が散る」をテーマに描いた日本画家・坂上楠生氏の絵画が飾られます。「将軍山会館」開館後、どなたでも鑑賞いただけます。

宮本輝・作「青が散る」をテーマに制作をして 2008年4月

今ここに、最初に描いた、メモのような「青が散る」の一枚のイメージデッサンがある。

何度も、何度も、小説を読み返し試行錯誤をしながら、ラフスケッチを繰り返したが、

最後には、はじめに描いたイメージデッサンに戻っていった。

私の脳裏から離れない小説の中の、いくつかの情景があり、

それが私の心の中で絵のモチーフとなって熟成していった。

そうしてできたのが、この「青が散るによせて」である。

このような、制作の機会を下さった追手門学院大学のご関係の皆様方に

心より感謝と御礼を申し上げます。

坂上楠生



将軍山会館 2008年6月28日竣工

2006年に大学40周年、そして2008年に追手門学院創立120周年を迎えました。120周年記念事業の一環として「将軍山会館」の建設が計画されました。「将軍山会館」は、地上2階地下1階建て、726平方メートル。会館内には追手門学院と大学が歩んできた歴史に関する資料等が展示できるスペースが設けられます。

卒業生の方々だけでなく、現役学生の方々にも、大学の歴史に触れていただけるようになっていきます。



イメージ図

校友会について

追手門学院大学校友会は昭和46年に「大学同窓会将軍山会」として結成されました。キャンパスの南端（現・追手門学院中学高等学校グラウンドの南）、緑豊かな小高い丘の中に藤原鎌足公の古墳があり、昔から「将軍山」と呼ばれてきました。昭和60年に名称を「追手門学院大学校友会」と改めました。追手門学院大学校友会は、追手門学院大学及び大学院出身者とその関係者（教職員）

をもって組織し、「会員相互の親睦を厚くし、母校との関係を密にし、母校の発展に寄与する」（校友会会則第2章第4条）ことを目的とする団体です。毎年、追手門学院大学と追手門学院大学校友会の共催により「ホームカミング・デー」を開催しています。卒業生の方々に母校を見ていただくとともに、教職員と旧交をあたためていただくことを目的として行っています。